

# 国語科学習指導案

指導者 吉田裕一

- 1 日時 平成27年7月3日(金) 1校時
- 2 学級 3年2組 男子16名 女子14名 合計30名 南校舎3階3年2組教室
- 3 主題 単元名 作品を批評しよう ～読みを深めることを通して～  
中心学習材 「蟬の声」浅田次郎(光村図書「国語3」)  
補助学習材 「握手」井上ひさし(光村図書「国語3」)  
「字のない葉書」向田邦子(光村図書「国語2」)

## 4 主題について

この「蟬の声」は小説である。物語は和男と祖父の夏休みの散歩の場面を中心に描かれており、途中で祖父の回想場面が挿入される文章である。【B書くこと】の指導事項エ「書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること」、【C読むこと】の指導事項ウ「文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること」、エ「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」を指導事項に位置づけ、読み取りで深めたことを基にして批評文を書く。

生徒は、先に文学的文章の学習として、『握手』(井上ひさし)の学習をしている。学習後にとったアンケート結果では、「文学的文章の学習が好き」「どちらかというと好き」と答える生徒が本学級全体の86%を占めた。記述内容では、「小説の世界観に引き込まれる」「それまで知らなかったことを知ることができる」と、学習する楽しさを感じている生徒が80%を占める反面、自分の生き方と登場人物の生き方を重ねて考えたり、登場人物の生き方や考え方を学ぶという点に対しては、わずか5%の生徒しか楽しみを感じていないことが分かった。それは、自分自身の生活とは大きく異なる人間の生き方や価値観などが主題になるような作品に触れる機会が少なかったためと思われる。

そこで本単元では主に文学作品に焦点を当て、読み取りを深めていく。批評するために様々な角度から小説を味わい、読みを深めさせていく。最終時には学習材の批評文を書かせ、その作品のもつ魅力について深く味わわせたい。そして、書き上げた批評文を互いに交流することを通して、作品の味わい方の幅を広げさせたい。

## 5 指導と評価の計画(別紙)

## 6 本時の達成目標

国語への関心・意欲・態度	交流を通して、自分の解釈したことや読み取ったことを深めようとしている。
話す・聞く能力	
書く能力	
読む能力	「祖父が泣いた理由」について、交流を踏まえて二度目の自己決定をしている。  〈生徒の記述例〉 祖父はきっと誰にもこの話をできなかったのだと思う。ついうっかり口を滑らせてしまったが、一旦口に出してしまったことで、祖父の中では思いが抑えきれなくなってしまったのではないか。「唇を震わせて泣いた」という表現は、今まで一人で抱えてきた辛さや、仲間に対する思いなどがいかにかに大きいものだったかを示していると思う。
言語についての知識・理解・技能	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに注意して文章を読んでいる。

## 7 本時の指導構想

### (1) 本時のねらい

本時は、評価規準の「読む能力」の「文章を読んで批評するために、場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、文章全体の理解を深めている」を主にねらったものである。

### (2) 「論理の意識化を図る学習活動」にかかわって

#### 【考えがいのある課題設定】

学習課題を「なぜ祖父は泣いたのか」と設定する（2. 学習課題を把握する。）。

課題解決の基となるのは、前時に行った読み取りである（1. 前時に学習した内容を確認する。）。

#### 【論理の思考型を用いた言語活動】

特に帰納的思考を用いて考えさせたい。

課題解決の基となる部分をおさえた上で1度目の自己決定をさせる（3. 自分の考えを書く。）。

交流を通して広がったり深まったりした考えを基に、2度目の自己決定をさせる（6. 交流を踏まえて再度自分の考えをまとめる。）。

#### 【かかわり合い】

2度のかかわり合いを設定する。

1度目は、国語班（3～4人グループ）でのかかわり合いである（4. 国語班で交流する。）。ねらいは「考えの補足・強化」である。誰もが納得する理由付けは何かを柱に、互いの意見を補足、強化する根拠を考えさせる言語活動を組みたい。

2度目は、その後の全体交流である（5. 全体で交流する。）。ねらいは「見方を広げたり深めたりすること」である。他の国語班の考え方に多く触れることで、さまざまなとらえがあることを確認し、その後の自己決定や学習の振り返りに生かすことをねらいとする。

#### 【自己評価活動】

自己評価活動を行う（7. 自己評価をする。）。ここでは、同じ根拠でも理由付けが異なることや、学習課題解決につながる根拠が適切であったかという点についても記述してほしい。また、本時の学習を通して自分の考えや広がりとともに、今後の学習に対する決意などを記述できるようになってほしい。

## 8 指導の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・方法	教材・教具等
導入 5分	1. 前時に学習した内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習シートに記入した内容を確認させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習シート</li> </ul>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【登場人物を「祖父」・「孫」に設定した意図・効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世代が離れた祖父と孫の心の距離が縮まっていくことを感じさせる意図。</li> <li>世代を離すことで、戦争の辛さを伝える効果。</li> </ul> </div>		
	2. 学習課題を把握する。			
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>なぜ祖父は泣いたのか</p> </div>		
展開 40分	3. 自分の考えを書く。 【自己決定①】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習シートに自分の考えを記入し、教科書に線を引きながらまとめる。</li> </ul>	6【読解能力】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習シート</li> </ul>
	4. 国語班で交流する。 【かかわり合い①】	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語班、全体で交流する中で、個人の視点、思考を広げさせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>文章中の根拠について触れ、帰納的思考を用いて自分の考えをまとめている。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習シート</li> </ul>
	5. 全体で交流する。 【かかわり合い②】		<p>〈学習シートの記述〉</p> <p>A:複数の思考型を用いて、祖父が泣いた理由だけでなく、作者の意図や表現の効果などについても自分の考えをまとめている。</p> <p>C:前時までの学習内容を確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習シート</li> </ul>
	6. 学習課題を振り返り、本時のまとめを確認する。 【自己決定②】	<ul style="list-style-type: none"> <li>200字程度で自分の考えをまとめて書く。</li> <li>交流したことを踏まえ、学習課題に対してのまとめを行う。</li> </ul>		
終末 5分	7. 自己評価活動を行う。			<ul style="list-style-type: none"> <li>学習シート</li> </ul>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>祖父は戦争のことを思い出して泣いただけかと最初考えたが、他の人の考えから、祖父は蟬と若い時の自分の生き方が重なり、その後悔が涙となって表れたという考えがとても参考になった。作品を批評するために、「蟬の声」についての作者の意図についても考えていきたい。</li> <li>前時に学習したことから、祖父が泣いた理由について考えることができた。交流を通して、戦争を経験している祖父が、戦争をしらない和男に当時の話をする中で、後世に戦争の悲惨さを伝えることができたという、満たされた思いが涙となって表れたのではないかと考えた。次は相手の説得できるよう、理由付けも深く考えていきたい。</li> </ul> </div>		
	8. 次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時は「蟬の声」というタイトルをつけた作者の意図に迫ることを確認する。</li> </ul>		

3 年 国 語	単元名 作品を批評しよう ～読みを深めることを通して～ 中心学習材 「蟬の声」 浅田次郎（光村図書「国語3」）	総時間 6時間扱い
---------	--	-----------

学習指導要領の指導事項	単元の目標
【B 書くこと】(1)エ 【C 読むこと】(1)ウ・エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、もの見方や考え方を深めること。 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。	○目的や意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開を工夫して説得力のある文章を書いている。 ○目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、人間や社会に対する自分の意見をもつことができる。

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
関① 批評文を書くために、人物の設定理由や作者の意図を考えようとしている。 関② 自分なりに解釈したことや読み取ったことを深めようとしている。	判断や評価の根拠を明確にして理由付けし、批評する文章を書いている。	文章を読んで批評するために、場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、文章全体の理解を深めている。	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに注意して文章を読んでいる。

時	主な学習活動	おおむね満足 (B)	十分満足 (A)	評価事例
1	○ 単元の目標・流れの確認。 ○ 批評文の書き方を確認する。 ・「握手」の題名について批評する。	書 既習事項について、自分なりの価値基準の根拠を明確にして評価している。	・ 批評文に論理の思考型を用いて、自分なりの価値基準の根拠を明確にして評価している。	<b>4 祖父が泣いた理由について、自分の考えをまとめる。（読 学習シート）</b> 前時で学習した内容と、交流した内容を踏まえて、祖父が泣いた理由をどのように書いているかを評価対象とする。 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <b>■おおむね満足 (B)</b>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                             祖父はきっと誰にもこの話をできなかったのだと思う。ついうっかり口を滑らせてしまったが、一旦口に出してしまったことで、祖父の中では思いが抑えきれなくなってしまったのではないかと。「唇を震わせて泣いた」という表現は、今まで一人で抱えてきた辛さや、仲間に対する思いなどがいかに大きいものだったかを示していると思う。                         </div> </div> <div style="width: 45%;"> <b>■十分満足 (A)</b>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                             もし戦争のことを話さなかったら、辛い思いを振り返ることもなく、泣かなかっただろう。話す中で当時抱えていた思いが涙に表れたと考えられる。また、「握手」の場合とは違い、「蟬の声」での二人の関係は家族である。身近な人でもなかなか話せなかったことをようやく打ち明けることができたという思いも祖父にはあり、世代を超えて思いを受け継いでほしいという祖父の願いを、涙という形で作者は表したのだろう。                         </div> </div> </div>
2	○ 「蟬の声」を読み、感想を書く。	関① 批評文を書くために、表現などに注意して読んでいる。 言 語句の意味をおさえながら文章を読んでいる。	・ 単元の目標を理解し、目的をもって文章を読んでいる。 ・ 表現の仕方と、その効果について触れている。	
3	○ 登場人物が一世代離れていることによる効果と、設定した作者の意図をまとめる。	読 既習事項との対比から、一世代離れている人物設定の効果について自分の考えをまとめている。	・ 文章中の叙述だけでなく、既習事項と対比し、それぞれの効果について触れながら複数の論理の思考型を用いながら自分の意図をまとめている。	
4 (本時)	○ 祖父の涙の理由についてまとめる。	関② 自分の考えを広げたり深めたりする交流をしている。 読 既習事項との対比や文章中の叙述から、祖父の涙の理由について自分の考えをまとめている。	・ 文章中の叙述や既習事項と対比から作者の意図や表現の効果について触れながら自分の考えを複数の論理の思考型を用いてまとめている。	
5	○ 題名に込められた作者の意図をまとめる。	関② 自分の考えを広げたり深めたりする交流をしている。 読 題名と文章との関連に着目し、自分の考えをまとめている。	・ 既習事項と対比し、文章との関連だけでなく、作品の主題も含めながら自分の考えを複数の論理の思考型を用いてまとめている。	
6	○ 「蟬の声」について批評文を書く。	関② 自分の考えを広げたり深めたりする交流をしている。 書 今まで読み取ったことを振り返り、作品について自分の考えをまとめ、批評文を書いている。	・ 今まで学習したことを振り返り、改めて深まった考えや、表現や描写の工夫、作品全体の展開、主題のとらえなど、さまざまな視点から自分の考えを再構築しながら批評文を書いている。	

文章中の根拠について触れ、帰納的思考を用いて自分の考えをまとめている。

複数の思考型を用いて、祖父が泣いた理由だけでなく、作者の意図や表現の効果などについても自分の考えをまとめている。

**【C：指導の手立て】**

自分の考えをまとめることが難しい生徒は、前時の学習事項を整理させたうえで結論をもたせ、口頭で内容を確認してから記述するよう支援する。